

# 第15期（令和4年度）事業報告書

特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド

令和4年4月1日～令和5年3月31日

# 第15期事業報告書（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

## 目次

ページ

1～5 事業の成果 (令和4年度)

6～7 事業の実施に関する事項 (令和4年度)

8 令和5年度【計画】

9 Jワールド 会員・賛助会員 推移

別紙 第15期決算報告書

## 令和4年度 特定非営利活動に係る事業報告書（第15期）

千葉県松戸市新松戸四丁目 257 番地の 1 ニューホームズ マンション 1 階  
特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド  
理事長 三浦 輝江

### 1 事業の成果

#### **ユース事業**

- ・ユースペースは放課後の中高生の居場所として開催。ゲーム、バンド、勉強、心の相談、時には卓球やレジンやビーズ等様々なことを通して居場所作りをした。
  - ・コロナ禍の中で一番感染者が増えた7月～8月は一時休止した。
  - ・12月にはクリスマス、3月には卒業パーティを実施した。
  - ・青少年会館(青少年スペース)からユースペースに遊びに来て定着する生徒もいた。
  - ・「おかえり」「ただいま」と声をかけたり、一緒に時間を過ごし、遊んだりする中で、心を開いて悩みを話してくれることもあった。
  - ・いつでも誰かが待っていると思って、高校卒業して社会人になった元利用者も、時間ができたときに顔をみせてくれることもあった。
- これからも、中高生たちがいつでも帰ってこられる居場所として、取り組み続けたい。

#### **ゲットユアドリーム事業（松戸市委託事業）**

- ・ゲットユアドリームは、松戸市中高生支援事業として委託されている。
- ・8回のゲットユアドリームで、計 96 名（河原塚中学校：13 名、根木内中学校：12 名、六実中学校：12 名、新松戸南中学校：12 名、旭町中学校：11 名、古ヶ崎中学校：10 名、第三中学校：12 名、常盤平中学校：14 名）延べ人数（重複あり）の講師の方々にお話しいただき、中学生たちに様々な価値観や職業観に触れ将来について考える場を提供できた。
- ・今回も学校と連携したことにより、多くの中学生たちに将来について考える機会を提供することができた。参加前は自分の将来について考えていたが不安だったが、ゲットユアドリームにより、これまでより将来について考えることができたと回答した。昨年度コロナで開催できなかった学校でも開催できた。

#### **松戸市子どもの学習支援事業（松戸市委託事業）**

##### **<学習面>**

- ・新型コロナウィルスによる休校期間（子どもの学習支援事業休止期間もあった）があったせいか、中3生の利用が伸び悩み、例年になく受験生が少ない年となった。いつも

と違う雰囲気に戸惑いつつ、中2や中1がどのようにしたら休まず、継続的に利用できるかを模索する1年となった。

・勉強のモチベーションを保つには、どうすればいいか模索する中、「基本に戻り、自分でできる！」ようになるまで、励まし続けることの大切さを再確認した。残念ながら、途中で来られなくなってしまった生徒もいたが、下半期を過ぎて、少しずつ勉強をするムードになって来ている。受験生が1・2名しかおらず、個別で対応した。

#### ＜居場所づくり＞

・毎回休憩時間に、一人一人が安心できる場所となるためのルールを必ず読み上げ、利用者に守ってもらう取り組みを継続実施。

・12月クリスマス会、3月に卒業パーティを3密を避け実施した。

・3月に、飲食の機会を再開したが、生徒たちの盛り上がりが違い、参加が多く楽しんでいた。食事をすることで、いつも以上に心を開くことを改めて認識し、生徒たちは楽しむ機会に飢えていると感じる出来事だった。

・「支援会場に友達ができると休まないので、どのように仲間入れをしていくか」ということ力を入れた。休憩時間にゲームをすることや、スタッフ、学生ボランティアの協力を得て、積極的な声掛けをした。

・小学生の部では、勉強をするのが本当に嫌な子どもたちが、スタッフに対して敵対的な態度をとることがあり、どのように接すればよいのか試行錯誤した。そんな中、私たちは「彼らの居場所となるように、勉強をしなくてもいられる場所」にし、彼らと一緒に遊ぶことを心掛けた結果、少しずつ信頼関係が生まれてきて、敵意がなくなってきている。ひとりでも多くの方が、学習支援を通して自己肯定感を回復し、ありのままの自分を大切にできる大人に成長してほしい。

#### 中高生の居場所づくり事業（松戸市委託事業）

青少年スペース新松戸（旧：青少年プラザ新松戸ユーススペース）

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、居場所内での感染症対策の対応をして居場所を開催した。コロナウイルス感染症が流行した7月8月は、閉所及びスタッフの体制を整えて開催したものので体育館を利用した学生たちの口コミが広がり利用者が増加。12月3月の中学生利用は延べ人数月100名を超えていた。利用する学生の特徴として学校での友人関係、先生との関係等の人間関係で悩んでいる学生が多く、気軽に利用しお話ができることで学生たちの息抜きの場所となっていると思われる。

#### Jボランティア

コロナ禍で大きなイベントや被災地支援は中止。学習支援や居場所支援のサポーターとして多くの学生がボランティアに参加してくれた。ボランティアに参加する中で人に仕えることや感謝されることの喜びを受け取っていた。

### **松戸市地域子ども・子育て支援事業（松戸市委託事業）**

#### **<おやこ DE 広場旭町>**

- ・コロナ禍で、2022年8月上旬にコーディネーター、スタッフ同時期にコロナ感染者、発熱者が続発して広場を閉鎖した。
- ・中学生と乳幼児親子のふれあい体験を2校で実施。初めての古ヶ崎中学校はランチルームで開催。旭町中学校は3年ぶりに広場にて開催した。
- ・シニア交流センターの空調工事が9月～3月まであり、工事期間中は利用者には不便なことが多かったが、冷暖房設備が整った。
- ・利用者の状況は、昨年度よりも保育園、保育所を利用される方がさらに多くなり、0歳児と1歳児で利用者の8割を占めている。またそれに伴い利用される期間もほとんどが1年未満と短くなっている。

#### **<子育てコーディネーター>**

- ・相談としては、例年のように離乳食や幼児食に関しての相談が多かった。また保育園に関しては、コロナ禍で情報が伝わりにくく、年明けになり保育園の相談をされた方もいた。
- ・第二子の出産に関して、第一子をどうしたらよいか、預け先はないか？という相談があり、里帰りされずに第二子を出産される方が増えているように感じる。

### **子育て支援事業**

#### **（子育てセミナー）**

- ・今年度もコロナの状況を踏まえ、オンライン(zoom)と会場でのハイブリット形式で開催した。
- ・昨年度よりも多くの各小学校家庭教育学級での活動がなされ（9校）、子育てセミナーに継続参加者多くなった。
- ・参加者の中に奏楽や会場準備のボランティアとしての参加があり、共に活動ができてよかった。

#### **（こひつじリトミック）**

- ・室内にとどまらず天気の良い日は公園に出て行き、公園で遊んでいる親子と交流を持った。そこから室内で行うリトミックに繋がり、継続して利用してくださる親子もいた。
- ・参加者にピアノ伴奏を依頼、参加者、スタッフが一緒になって開催できた。
- ・ホームページを見てリトミックに参加者が多くなった。

### **リバちい事業**

- ・子どもの未来応援基金からの助成を受け、保護者のための相談ルーム、子どものための居場所を前年度に引き続き運営を実施した。家族体験による個別支援により、不登校児童、および不登校傾向の児童それぞれ1名が学校に戻ることができた。
- ・松戸市子ども家庭相談課の自立支援プログラム「スマイルプロジェクト」を一部委託事業として受託。1組の利用者が継続して利用しており、子ども家庭相談課とも信頼関係が築かれている。
- ・2021年度は松戸市子ども家庭相談課、松戸市教育委員会から多数の利用者の連携があったが、2022年度は連携がなく、個別での利用問い合わせもあったが、利用には至らなかった。そのため、新規利用者がなく、継続利用者のみでスタッフ、ボランティアの確保が難しいこともあり、新年度からは火曜日のみに事業規模を縮小することにした。

### **ひかりテラス事業**

- ・松戸市教育委員会との協働事業により、青少年会館のロビーを借りて、2022年8月に開所した居場所づくり事業で、保護者のための居場所(11:00-14:00)と、小中高生を対象にした子どもたちの居場所(11:00-よいこのチャイム)を開設している。9月よりドコモ市民活動団体助成事業の助成金により運営しており、子どもたち5名程度、保護者2名程度が利用者として定着している。
- ・保護者のための居場所づくりでは、まず保護者との信頼関係を築くために、カフェを開設し、手芸を交えて雑談する中で出てくる悩みを聞いて、ともに解決していくスタイルをとっている。予約なしで利用できるようにしていることで、予約キャンセルなどの精神的負荷を軽減し、気軽に利用できるように工夫している。
- ・子どもたちの居場所づくりでは、ただボードゲームで遊ぶだけでなく、工作を交えて一人ひとりの特性を把握するようにしたり、モノの貸し借りが必要な場面を用意したりして、社会性や協調性を育むための練習を取り入れている。また、小学生には絵本の読み聞かせを通じて、感想などを共有する時間を取り入れ、会話を引き出すように努めている。
- ・2023年度より開所時間が15:00までに短縮したため、一般児童の利用者数が減少した。不登校児童は、学校を通じて「ひかりテラス」を案内しているが、利用に至らないことが多く、支援のアプローチ方法を模索していく必要がある。

### **普及啓蒙事業**

- ・Facebookでの週1回以上の投稿を心がけた。その結果、ページに「いいね」をしてくださる方が5%程度増加した。また、各事業のホームページにおいて実施日時などを細かく更新することで、参加に関する問い合わせの数が増加している。

- ・人手不足により、更新が滞ることがあり、当法人を応援してくださる方に適切に情報発信できていなかったり、当法人のような事業に興味を持ってくださっている方に十分に情報が届いていない可能性があり、その解決が今後の課題である。
- ・ホームページが時折アクセスできなくなる事象が発生しており、サーバーに関連したものと思われる。根本解決が難しいため、現在使用しているサービスから別のものを利用して載せ替えることを検討している。

## 2. 事業の実施に関する事項 第15期

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の平均人数	受益対象者の範囲および人数	支出額(千円)
① ユース事業 (ユースペース)	中高生の居場所の開催	毎月 20回	SRCビル 2F多目的ホール	2人	中高生 のべ 990 人	21
② ゲットユアドリーム 事業	様々な職業について いる人生の先輩から 話を聞き、将来につ いて考えるワークショ ップの開催。	年8校	松戸市立中学校	40人 (講師12 人含む)	中学生 8校1356人	915
③松戸市子どもの学習 支援事業	小中学生に勉強を教 えるだけでなく、居場 所としての機能を持 ち、学力向上を通し、 自立する力を養う。	小中学生 火・木	SRCビル 2F 多目的ホール	10人	のべ 1060 人 (学習支援) のべ 379 人 (居場所)	8,230
④松戸市中高生の 居場所づくり事業	中高生の見守りを行 い、必要に応じ学習 相談や進路相談に応 じる。	毎週 金曜日	松戸市青少年会 館 (1Fロビー、3F和 室および体育館)	3人	のべ 1,456 人	1,176
⑤J ボランティア事業	中学・高校、大学生を 対象としたボランティ ア活動。	随時	SRCビル 2F オンラインも利用	5人	大学生 17 人 高校生 8 人	9
⑥松戸市地域子ども・子育て 支援事業 (おやこDE広場 旭町)	乳幼児・親子の集い の場所を提供する。	月 17回	松戸市 シニア交流 センター3F	3人	のべ 2262 人	4,812
⑦松戸市地域子ども・ 子育て支援事業 (子育てコーディネーター)	おやこ DE 広場開催 時、子育ての相談、 子育て支援サービス の紹介、子育て支援 機関との連携。	月 17回	松戸市 シニア交流 センター内	1人	松戸市および 近隣の市民 のべ 154 人	2,211
⑧子育て支援事業 (子育てセミナー)	バウンダーについ ての講演会や研修会	月1回 金曜日	SRCビル 2F 多目的ホール および 3F	15人	松戸市及び近隣 の市民(44人) ZOOM 参加者	83

子育て支援事業 ミック)	(リト)乳幼児が心身共に健 康になり、親とのスキ ンシップの時間を持 つための企画・運営 (リズム体操など)	月1回 不定期	SRCビル 2F 多目的ホール	4人	未就園児および その保護者 のべ66人	子育て支 援事業に 含む
⑨リバちい事業	困窮家庭の社会的自 立に向けて相談や居 場所づくりを通した支 援を行う。	原則 月・火 木・土 週4回	新松戸4-263 リバちいルーム	10人	のべ153人	3,145
⑩ひかりテラス事業 (ドコモ市民活動団体助成 事業)	保護者と中高生のた めの居場所を開催。	毎週月曜 日(休館 日除く)	松戸市青少年会 館1Fロビー	3人	生徒、保護者合 わせてのべ 40名	291
⑪普及啓発事業	各事業についてのH Pを開設しチラシ配布 等により活動内容を 紹介する。	随時	SRCビル2F 多目的ホール	2人	不特定多数	7
⑫本会計からの負担						226

計 21,126千円

※千円未満切り捨てのため、  
支出欄の合計と総計は一致しません。

3. 令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）【計画】

事業名	実施日	実施場所	従事者の平均人數	受益対象者の範囲及び人數	収入の部（千円）	支出の部（千円）
①ユース事業	月20回	SRCビル2F 多目的ホール	2人	延べ：中学・ 高校生 (1,000名)	0	30
②ゲットユアドリーム事業	年6回	松戸市立中	30名	中学生 (1,000名)	1,070	920
③学習支援事業	中学生90日 小学生90日	SRCビル2F 多目的ホール	10人	延べ： (1,400名)	9,939	8,590
④中高生の居場所づくり	週2回（年間90回）	青少年会館	3人	小・中・高生 (1,600人)	3,207	2,800
⑤Jボランティア事業	随時	SRCビル2階、青少年会館	3人～5人 (オンライン)	延べ：中 学・高校生 (100名)	15	5
⑥おやこDE広場旭町 (松戸市委託事業)	月17回	シニア交流センター内	3人	延べ： (2,300名)	5,203	4,900
⑦子育て支援 コーディネーター	月17回	シニア交流センター内	1人	延べ： (160名)	2,466	2,343
⑧子育て支援事業 (子育てセミナー)	月1回 金曜日	SRCビル2階 及び3F	20人	延べ：松戸市 及び近隣の市民 (50名)	20	20
⑨子育て支援事業 (リトミック)	月1回不定期	SRCビル2階 及び3F	4人	未就園児(20 名) 親含む	6	6
⑩リバちい事業	月4回 10:00- 20:00	リバちい相談	8人	不特定多数	135	130
⑪ひかりテラス事業					0	400
⑫普及啓蒙事業	随時	SRCビル2F 多目的ホール	3人	不特定多数	0	25
					22,061	20,144
会費・入会金収入					700	
補助金及び助成金収入・寄付金収入					500	
その他（管理費等）						2,600
収支総合計					23,261	22,744
						517

#### 4. Jワールド 会員・賛助会員推移

		正会員	賛助会員	計
平成20年度	会員数	28	11	39
	会 費	54,000	72,000	126,000
平成21年度	会員数	26	12	38
	会 費	53,000	59,000	112,000
平成22年度	会員数	26	7	33
	会 費	53,000	33,000	86,000
平成23年度	会員数	24	16	40
	会 費	52,000	77,000	129,000
平成24年度	会員数	26	28	54
	会 費	54,000	147,000	201,000
平成25年度	会員数	28	33	61
	会 費	61,000	393,000	454,000
平成26年度	会員数	31	38	69
	会 費	71,000	321,000	392,000
平成27年度	会員数	31	110	141
	会 費	70,000	646,000	716,000
平成28年度	会員数	20	103	123
	会 費	61,000	536,000	597,000
平成29年度	会員数	20	106	126
	会 費	68,000	583,000	651,000
平成30年度	会員数	17	80	97
	会 費	59,000	360,000	419,000
平成31年度	会員数	23	72	95
	会 費	79,000	352,000	431,000
令和2年度	会員数	26	65	91
	会 費	94,000	276,000	370,000
令和3年度	会員数	26	82	108
	会 費	103,000	343,000	446,000
令和4年度	会員数	25	67	92
	会 費	83,000	332,000	415,000